

成田遺跡「ナイフ形石器・石刃」

(なりたいせき「ないふがたせっき・せきじん」)



作者	—
年代	旧石器時代後半
材質形状	石製
大きさ(cm)	—
指定	須賀川市指定文化財
その他	阿武隈考古館コレクション

成田遺跡(岩瀬郡鏡石町)は、阿武隈川を東に見下ろす丘陵上にあります。昭和 22 年(1947) 3 月、採石場だったこの遺跡周辺で働く人が石器を発見し、首藤保之助が現場で 9 点を採集しました。

当時、日本の考古学会で縄文時代より古い人間の文化(旧石器時代)が存在するかどうかの議論は結論をみていませんでした。首藤も成田遺跡で採集したこれらの石器について採集日誌に「打剥製皮剥具(石匙)」と記し、縄文時代の石器と解釈していました。

しかし、この採集から 1 年前の昭和 21 年、群馬県岩宿遺跡から出土した石器が、昭和 24 年の発掘調査を経て旧石器時代のもものと認められました。これによって各地で旧石器時代の資料が見出されることとなり、成田遺跡の石器も旧石器時代の遺物とされました。

基部調整のナイフ形石器 8 点、石刃 6 点があり、いずれも硬質頁岩製です。後期旧石器時代前半の資料と考えられています。

- ・刊行物

須賀川市立博物館開館 50 周年記念企画展「帰ってきた考古館展」2020.7 69P

- ・須賀川市ホームページ

「須賀川人物伝__首藤保之助」

https://www.city.sukagawa.fukushima.jp/shisei/gaiyo/city_profile/rekishi/jinbutsuden/index.html